

国立大学図書館における図書系職員と教員スタッフの連携  
東京大学経済学部図書館を例として

はじめに（用語の確認）

- ・ 図書系職員→旧国家公務員 2 種（図書館学）採用者および国立大学法人に図書系として採用された職員
- ・ 教員スタッフ→身分的には教員でありながら、図書館実務に深く関わる形態のスタッフ。図書館長や商議員などの実際的な本務が他の研究にある教員を指しているわけではない。

1. 東京大学経済学部図書館（以下、経済学部図書館）の職務分担と人的構成

表 1 2008 年度現在の経済学部図書館の職務分担と人的構成

	担当資料	担当スタッフ
図書館	・ 一般図書 ・ 学術雑誌	図書系職員
資料室	・ 統計資料 ・ 灰色文献 ・ 近・現代一次資料	助教・助手相当
文書室	・ 近世古文書	非常勤職員

2. 現在までの経緯

(1) 1998 年－2000 年

- ・ 図書館における助手位置づけの再検討、専門集団化構想、資料室への集中化
- ・ 専門集団化構想の必要性←人事異動、人員削減など人材育成が困難に

(2) 2000 年－2003 年

- ・ 公募により助手（3 名）を採用し順次図書系職員と置きかえ、現体制の基盤完成
- ・ 身分的位置づけ→教員≧資料室助手<図書系職員
- ・ 種々の問題点→給与体系、任期制、拘束時間、待遇、成果、研究
- ・ 公平と平等、性善説と性悪説

(3) 2004 年以降

- ・ 国立大学の独立行政法人化→組織としての柔軟性、資料室の位置づけ再燃
- ・ 学校教育法改正→より高度な専門性、研究能力を保持できる必要性
- ・ 新棟建設による資料室・文書室の移転→資料室・文書室の再組織化、再定義

表 2 公募条件の変化

1999 年助手公募	2007 年助教公募
<p>5. 職務 (前略)</p> <p>(1)日本経済に関する文献情報等のレファレンス</p> <p>(2)資料の収集と整理</p> <p>(3)目録情報の遡及入力、一次資料の電子化と公開など進行中の業務</p> <p>(4)その他、経済学部図書館の構成職員としての業務</p> <p>6. 応募資格</p> <p>以下の条件を選考の基準とするので、これをいくつか満たしていることが望ましい。選考に当たって、特に(1)と(2)を重視する。</p> <p>(1)経済学ないしは経済関係の資料に知識・経験を有すること 四年制大学経済学部卒業以上(修士の学位を持つものが望ましい)、ないしは相当期間、司書として関連業務の経験がある。</p> <p>(2)司書資格を有する。</p> <p>(3)コンピュータ(機器管理、情報ネットワーク)にある程度精通している。</p> <p>(4)一次資料等の整理・分析ができる(アーキビストとしての知識、経験を有する)。</p> <p>(5)複数の外国語ができる。</p>	<p>5. 職務 (前略)</p> <p>① 資料の収集と整理。</p> <p>② 一次資料の保存と公開に関する研究。</p> <p>③ 日本経済に関する文献・電子情報等のレファレンス。</p> <p>④ その他。</p> <p>6. 応募資格</p> <p>修士の学位を有する者またはそれに相当すると認められる者。以下の条件を選考の基準とするので、これをいくつか満たしていることが望ましい。</p> <p>① 一次資料等の整理・分析ができる(アーキビストもしくはライブラリアンとしての知識、経験および資料の保存・修復の経験を有する)こと。</p> <p>② 経済学ないしは経済関係の資料に知識・経験を有すること。</p> <p>③ 複数の外国語ができること。</p> <p>④ コンピュータ(機器管理、情報ネットワーク)にある程度精通していること。</p>

3. 東京大学経済学部資料室がなすべきことは何かを考える

- (1) 東京大学経済学部の学問的伝統とは何か  
→資料に密着した実証研究
- (2) 東京大学経済学部図書館とは何か  
→90 有余年の歴史を背景とした **The Library of Economics** の理念
- (3) その中で資料室はどのような役割を担ってきたか

→経済学の実証的研究のための各種資料の収集及び管理

商業資料文庫以来連綿と続く企業資料の収集

国家－企業－労働

(4) 社会的状況

→資料存亡危機の20年間…業界再編、行政改革、労働運動低迷、情報関係立法

酸性紙問題、ビネガーシンドローム、デジタルデータ

今後の展望 ーむすびにかえてー

(1) 図書館は図書館情報学における現場である

→現場を有する学問分野の重要性 c.f.考古学、医学

(2) 専門職であり続けるには

→キャリアパスの形成にはマネジメント力と社会的認知が必要

成果の発信と社会的有用性・必要性

大学図書館の本質に立ち帰る (学術図書館・専門図書館・学習図書館)